編 修 趣 意 書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-279	高等学校	芸術科	書道Ⅰ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38・光村	書Ⅰ・705	書Ⅰ		

1. 編修の基本方針

「自分の書」に出会う。

生徒が書と向き合い，自分らしい表現や好きな書に出会える教科書を目ざし，次の点を柱に編修しました。

感じる

鑑賞・臨書教材では，原跡に迫る高精細な図版を掲載しています。「本物」から感じ取ることのできる書の真髄は，生徒の感性を豊かにし，表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

学ぶ

生徒が書で表現することの楽しさや喜びを体感できる構成を目ざしました。学びやすさを追求し，達成感をもって取り組める構成は，生徒の主体的な学習姿勢を育成します。

考える

生徒が自ら考えて，古典や名筆を自分の書に落とし込んでいく過程を重視しました。じっくりと鑑賞したり，臨書を繰り返したりしながら，書の表現や構成美について考え，理解を深めます。

編修の留意点

1 書道が好きになる

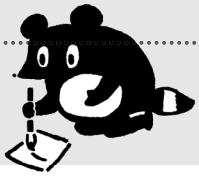
「記憶に残る体験」ができる教材を取り上げ，生徒が書に興味をもち，主体的に学ぶことで自分の書に向き合うことができるよう構成しました。

2 表現と鑑賞の力が，着実に身につく

書写で培った能力を基礎としながらも，厳選された古典教材を学習することにより，創造の根源となる感性を高め，表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと展開できる内容を目ざしました。

3 書文化への関心を高め，学びを広げる

書の伝統と文化について，さまざまな角度からアプローチすることで，その理解を深めて文化に親しみ，次世代へ継承していく態度を育成することを目ざしました。

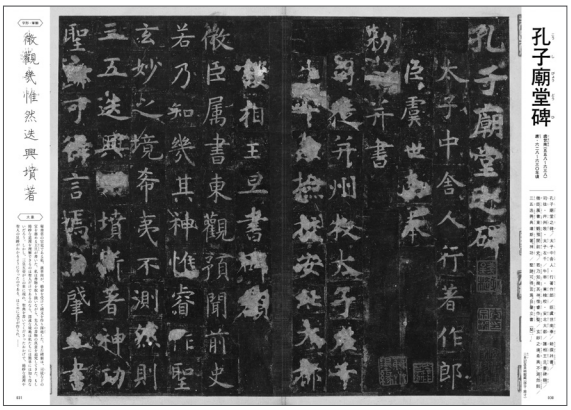


1 書道が好きになる

◉「本物」にこだわりました。

古典・古筆の教材は，生徒の感性を高める大切な教材であるため，極めて鮮明で臨場感あふれる高精細の図版を掲載しています。 特に，書の基礎を養う古典教材は，剪装本や巻子本の状態そのままを見開きで掲載し，教材の価値を高めるよう追求しました。 色調においても実物との校正を繰り返し，原跡に近づくよう追求しました。

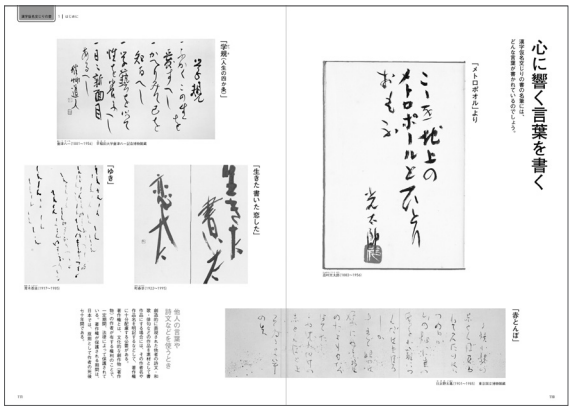
p.34-35「九成宮醴泉銘」



p.30-31「孔子廟堂碑」

◉「言葉」を大切にしました。

巻頭には，言葉がもつ力，そして言葉を書で表現することの魅力を伝える教材を新設しました。また，「漢字仮名交じりの書」には，「心に響く言葉を書く」「好きな言葉を書こう」など，言葉に着目させる教材を掲載しています。作例に登場する語句を含め，教科書全体を通して，言葉を大切にした編修を行いました。

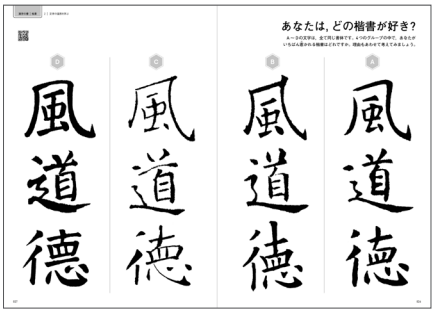


p110-111「心に響く言葉を書く」

表2，p.17　巻頭 口絵

◉主体的に学べる活動を積極的に取り入れました。

生徒自身が，好きな古典を選んだり，古典を比べたり，古典のイメージを言語化したりするなど，主体的に学ぶことで，書を好きになってもらえるよう，見る・比べる・選ぶ・話し合うなどの活動を随所に取り入れました。



p.26-27「あなたは，どの楷書が好き?」

2 表現と鑑賞の力が，着実に身につく

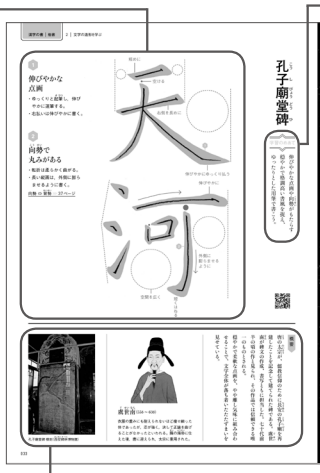
◉どのような特徴や書風を意識して書くかを，ひと目で分かる構成にしました。

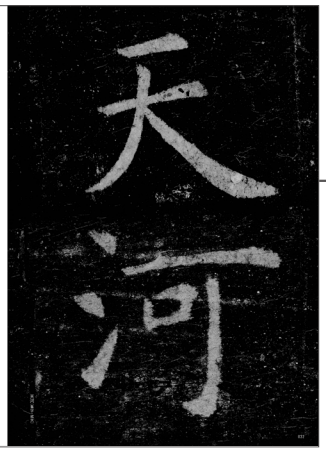
基本となる古典は4ページ構成とし，前半2ページは古典を見開き・原寸大で掲載，後半2ページは古典の特徴や臨書のポイントを明示して，学習内容の焦点化を図りました。今回の学習指導要領改訂で新設された〔共通事項〕に配慮した構成を実現し，表現と鑑賞の基礎的な能力を着実に身につけることができます。

臨書のポイント
その書に特有の書風や字形・用筆が見られる文字をもとに，何を意識して書くかを明示しました。

1
伸びやかな点画
・ゆっくりと起筆し，伸びやかに運筆する。
・右払いは伸びやかに書く。

2
向勢で丸みがある
・転折は柔らかく曲がる。
・長い縦画は，外側に膨らませるように書く。
向勢 ⇔ 背勢 ≫ 37ページ





p.32-33「孔子廟堂碑」

学習のめあて
古典教材を通して，何を学習するのかを明確に示しました。

学習のめあて
伸びやかな点画や向勢がもたらす穏やかで格調高い書風を捉え，ゆったりとした用筆で書こう。

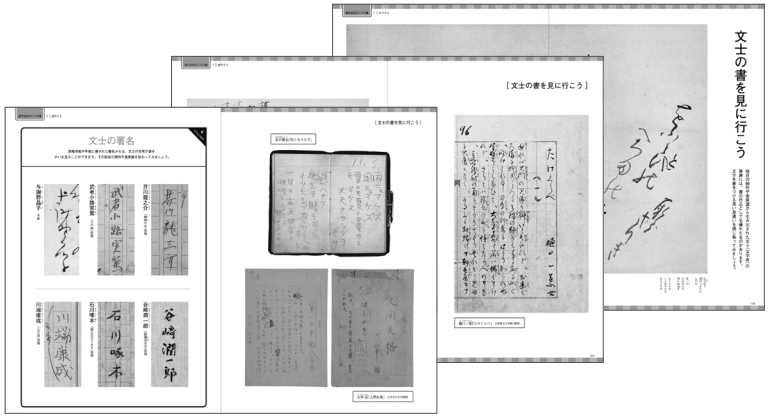
概要／解説
「概要」には，古典の背景やエピソードを記しました。さらに，生徒の知的好奇心を喚起する，人物紹介や参考写真などの「解説」を掲載しました。

集字図版
鮮明な図版を，右ページに裁ち落としで大きく掲載しました。ページを折り返せる中綴じ製本のため，高精細な古典画像を机上に置いて臨書できます。

3 書文化への関心を高め，学びを広げる

◉書文化や芸術への関心を高める魅力的な教材が満載です。

書の伝統と文化に対する理解を深めるとともに，文字文化や他の芸術分野，国語の学習にもつながる多角的な教材を提示しました。生徒の視野を広げ，興味・関心を喚起できる内容を厳選して掲載しています。



p.118-122「文士の書を見に行こう」
p.123「文士の署名」

2. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当頁
口絵		◯ 書道を通して真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うとともに，健やかな身体を養うために，口絵には，漫画の言葉を題材とした書作品の制作風景を取り上げ，生徒の知的好奇心を刺激し，興味・関心をもって学習に取り組めるよう配慮した。【第一号】	表2,p.17
篆刻　刻字ブック		◯ 篆刻では，朱文印や白文印の表現技法を丁寧に示すことで，そこにある長い伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。【第五号】 ◯ さまざまな姓名印や街に息づく刻字を示すことにより，日常的に見られる印や看板等が書道の分野の一つであることを知り，社会の一員として，男女の平等を意識するとともに，公共の精神に基づき，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第三号】	p.1-16
書道で学習すること 書写から書道へ		◯ 幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うために，国語科書写から芸術科書道への接続となる導入教材を配した。【第一号】	p.20-22
漢字の書	1 はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体	◯ 甲骨文に始まる漢字の変遷と，その漢字から平仮名や片仮名が生まれた書の歴史を示すことで，伝統と文化を尊重し，我が国を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第五号】	p.24-25
	2 文字の造形を学ぶ＜楷書＞ あなたは，どの楷書が好き? 唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 鑑賞を始めよう 牛橛造像記 鄭羲下碑 ［コラム］「摩崖」の書 隅寺心経	◯ 生徒の個性を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うために，生徒が自らの感性で鑑賞し，古典に親しむ教材を設定した。【第二号】 ◯ 幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うために，基礎となる古典教材は，剪装本や巻子本の紙面を原寸大で掲載し，臨場感のある鑑賞を可能にするとともに，多字数を観察することで表現技法への理解を深められるよう配慮した。【第一号】 ◯ 個人を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うために，鑑賞を深めるための教材には書き込み欄を設け，生徒自らが考え判断するように設定した。【第二号】 ◯ 生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うために，世界文化遺産に登録されている龍門石窟や，同時代の摩崖を取り上げた。【第四号】	p.26-53
	2 文字の造形を学ぶ＜行書＞ 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 ［コラム］印でわかる古典の真価 争坐位文稿／蜀素帖 風信帖 三筆・三跡の書	◯ 行書の基礎古典である「蘭亭序」の内容や作品についてさまざまな角度から掘り下げると同時に，巻末折込には全景を原寸で掲載した。正義と責任，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うために，古代文化人の宴を素材とした。【第三号】 ◯ 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために，留学僧として中国に学んだ空海の書や同時代の唐代の書を取り上げ，古来盛んであった両国の関係についても理解できるよう配慮した。【第五号】 ◯ 名品に押された印に見える歴史や，日本と中国との交流によって生まれた和様の書を示し，これを文化として後世に伝える社会的な正義と責任，また自他の敬愛と公共の精神を養えるよう配慮した。【第三号】	p.54-65
	2 文字の造形を学ぶ ＜草書／隷書／篆書＞ 真草千字文 曹全碑 泰山刻石	◯ 幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うために，楷書や行書の他にも，草書・隷書・篆書の基礎的な知識や技能を教材化した。【第一号】	p.66-71
	3 創作する 古典を生かした創作 創作例 ［コラム］さまざまな書の姿	◯ 創作活動では，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と健やかな身体を育成することにつながる題材を取り上げた。【第一号】	p.72-76
仮名の書	1 はじめに 仮名の成立と種類	◯ 中国で誕生した漢字をもとに平仮名や片仮名が生まれたことを示し，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。【第五号】	p.78-79
	2 文字の造形を学ぶ 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬萊切 高野切第三種 表現を比べよう （関戸本古今和歌集／ 元永本古今和歌集）	◯ 平仮名や数種の変体仮名を取り上げ，漢字から仮名が成立した過程における先人の創意工夫を知ることにより，伝統と文化を尊重しながらも，創造性を培い，自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。【第二号】 ◯『古今和歌集』の写本である「高野切第三種」「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」を掲載することで，千年という長い歴史の中で大切に受け継がれてきた古典に，古の文化人の幅広い知識と教養が表れていることを知り，また生徒自らも真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】	p.80-93

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当頁
仮名の書	3 構成を学ぶ 継色紙 寸松庵色紙／升色紙 さまざまな構成方法	◯ 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うために，先人が培ってきた仮名の構成美を教材として取り上げた。【第五号】	p.96-101
	4 創作する 古筆を生かした創作 創作例 受け継がれる仮名の書 [コラム] 美しい料紙の世界	◯ 創作では，書の伝統的な書式を重んじながらも，さまざまな素材や表現法を示すことで，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養えるよう配慮した。【第一号】 ◯ 手習いや鑑賞のために改装された古筆や，現代に伝わる装飾料紙を取り上げ，高い技術を要する伝統工芸との関連から，個人の価値を尊重するとともに勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した。【第二号】	p.102-105 p.94-95 p.106
漢字仮名交じりの書	1 はじめに 漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く	◯ 身近な詩や歌詞を題材とした名筆を取り上ることで，生徒の意欲を高め，自らも幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うことへの関心を喚起した。【第一号】	p.108-111
	2 創作する 好きな言葉を書こう あなたは，どの書が好き? 表現の幅を広げよう 文士の書を見に行こう [コラム] 文士の署名 漢字仮名交じり文と日本語表記	◯ 創作では，これまでに学習した要素を段階的に構成し，さまざまな表現方法を示すことで，個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。【第二号】 ◯ 日常的に筆で文字を書いていた時代の文士の書を示すことで，書という伝統文化が日常に根付いていたことを理解させるとともに，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うことへの関心を喚起した。【第一号】 ◯ 漢字仮名交じり文が，日本の書の歴史の中でどのように表現されてきたかを示し，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。【第五号】	p.112-124
資料	書写・書道の基本	◯ 正しい姿勢や筆の持ち方等，書道における基礎・基本を身に付け，真理を求める態度を養うとともに健やかな身体の育成に配慮した。【第一号】 ◯ 自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養う意識がもてるよう，書の用具・用材である筆・紙・墨・硯の製造法等を紹介した。【第四号】	p.126-131
	生活の中の書	◯ 社会の一員として，正義と責任，男女の平等を意識するとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うために，手紙の書き方や伝統的な表書きの書式等，日常の書式例を分類して取り上げた。【第三号】	p.132-137
	書道事典	◯ 真理を求める態度を養うために，書道における基礎的な用語とその解説を一覧にまとめ，長い歴史と伝統の中で受け継がれてきた書道をより深く理解できるよう配慮した。【第一号】	p.138-140 p.157
巻末折込	風信帖／蘭亭序 書道史略年表／龍門二十品	◯ 伝統と文化を尊重し，我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために，「蘭亭序」「風信帖」「龍門二十品」の折込資料と，三千年にも及ぶ書の歴史を紹介した。【第五号】	p.141-156

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

中学校との接続を図りました。

- 巻頭に「書道で学習すること」「書写から書道へ」を設け，中学校国語科書写からの円滑な接続を図るとともに，芸術科書道での学習の見通しがもてるように配慮しました。

いつでも活用できる資料が充実しました。

- 巻末に「資料」を設け，日常生活に役立つ実践的な資料や，学習を効果的にサポートする多彩な資料を収録しました。 中学校までに学習した書写の学習要素一覧や姿勢・執筆，用具・用材の扱い方をまとめた「書写・書道の基本」，手紙等の定型書式を収めた「生活の中の書」，中国・日本の書道史年表や書道用語一覧を収めた「書道事典」の三つに分類し，必要に応じていつでも活用できるよう配慮しました。

すべての生徒にとって使いやすく，わかりやすい教科書を実現しました。

- 特別支援教育の専門家から校閲を受け，情報を精選し，大切なことがひと目で分かる，すっきりとしたレイアウトを実現しました。
- カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け，文字や図表などに複数の色を用いるときは，誰もが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表，配当授業時数表

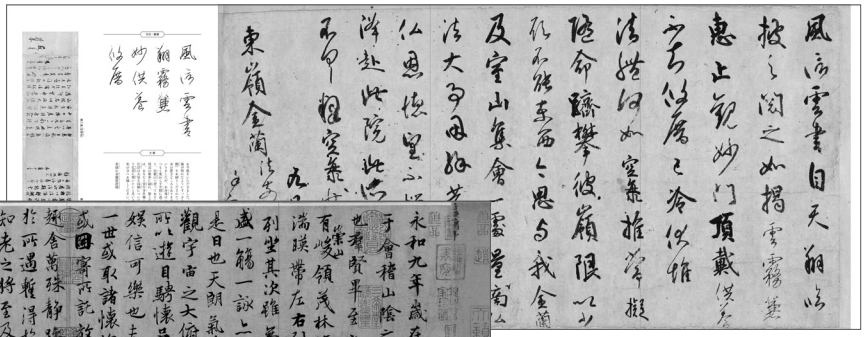
※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-279	高等学校	芸術科	書道Ⅰ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38・光村	書Ⅰ・705	書Ⅰ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

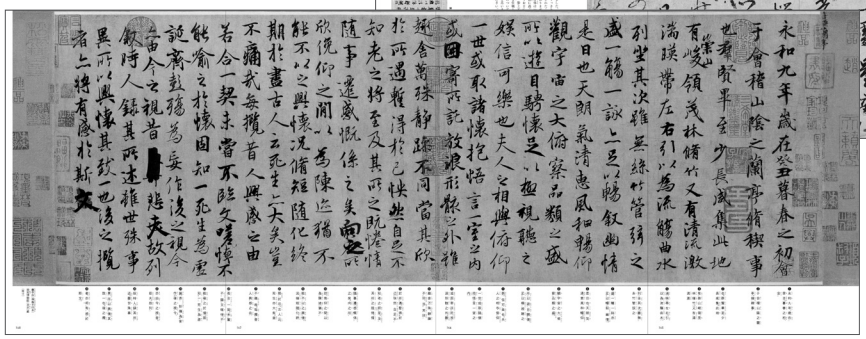
1 迫力の折込ページを収録

◉臨場感あふれるレイアウトで，生徒の感性に響く紙面を展開しています。

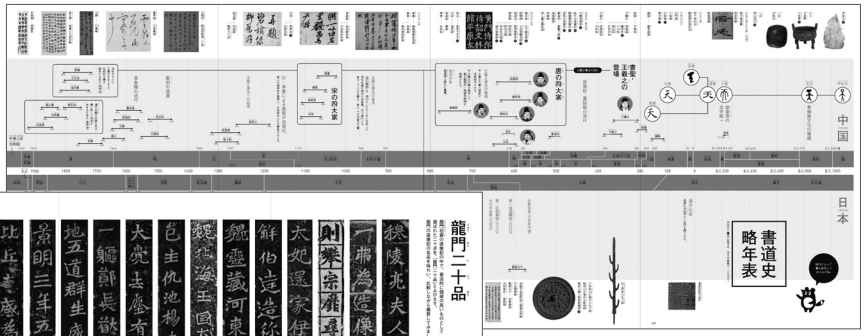
巻末には，「風信帖」「蘭亭序」の原寸大全景をはじめ，「龍門二十品」「書道史略年表」が一覧できるページを設けました。鮮明な画像と臨場感あふれるレイアウトで，書の美を存分に伝えます。



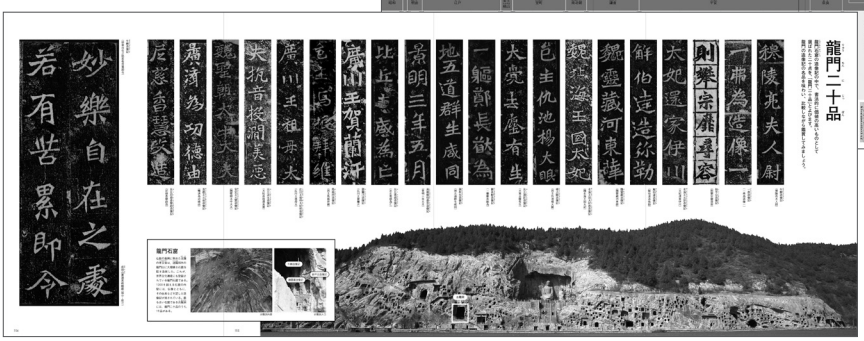
p.141-144「風信帖」



p.145-148「蘭亭序」



p.149-152「書道史略年表」



p.153-156「龍門二十品」

2 最良の古典教材を掲載

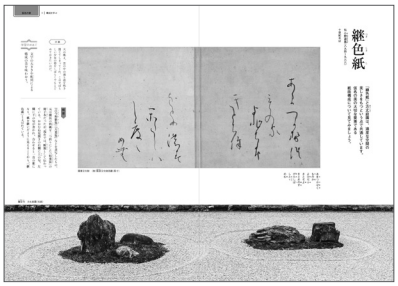
◉古典教材のラインナップが充実し，多様な古典に親しむことができます。

書を学ぶうえで基本となる古典・古筆・名筆を重点的に扱い，字形や用筆の知識・技能を習得できるようにしました。その上で，それ以外の多彩な書風にふれ，表現や鑑賞を広げられるようにしました。古典・古筆は，諸本の中から最良のものを選び，その書に特有の書風や字形・用筆が見られる部分を採用しました。

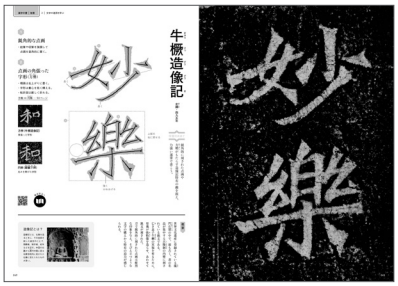
掲載古典一覧

領域	書体	基本となる古典・古筆・名筆	表現を広げるための古典・古筆	それ以外の古典・古筆
漢字の書	楷書	「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」	「牛橛造像記」 「鄭羲下碑」 「隅寺心経」	「甲骨文」 「小克鼎」 「礼器碑」 「一弗造像記」「始平公造像記」 「北海王元詳造像記」「解伯達造像記」 「魏霊蔵造像記」「北海王国太妃高造像記」 「楊大眼造像記」「比丘道匠造像記」 「鄭長猷造像記」「孫秋生造像記」 「高樹解伯都等造像記」「比丘恵感造像記」 「賀蘭汗造像記」「馬振拝造像記」 「広川王祖母太妃侯造像記」 「比丘法生造像記」「安定王元燮造像記」 「斉郡王元祐造像記「比丘尼慈香慧政造像記」
	行書	「蘭亭序」	「争坐位文稿」 「蜀素帖」 「風信帖」	「灌頂歴名」 「光定戒牒」 「伊都内親王願文」 「智証大師諡号勅書」 「詩懐紙」 「白氏詩巻」
	草書	「真草千字文」		
	隷書	「曹全碑」		
	篆書	「泰山刻石」		
仮名の書		「蓬萊切」 「高野切第三種」	「関戸本古今和歌集」 「元永本古今和歌集」 「継色紙」 「寸松庵色紙」 「升色紙」	「隅田八幡人物画象鏡銘」 「正倉院仮名文書」 「綾地切」 「高野切第一種」 「方丈記」 「本阿弥切本古今和歌集」 「本願寺本三十六人家集」
漢字仮名 交じりの書		金子鷗亭 高村光太郎，日比野五鳳，會津八一，町春草，青木香流 正岡子規 樋口一葉，三好達治，芥川龍之介，棟方志功，林芙美子 宮沢賢治，太宰治 武者小路実篤，与謝野晶子，谷崎潤一郎，石川啄木，川端康成， 「東大寺切」，小林一茶，夏目漱石		

p.108-109「漢字仮名交じりの書とは」



p.96-97「継色紙」



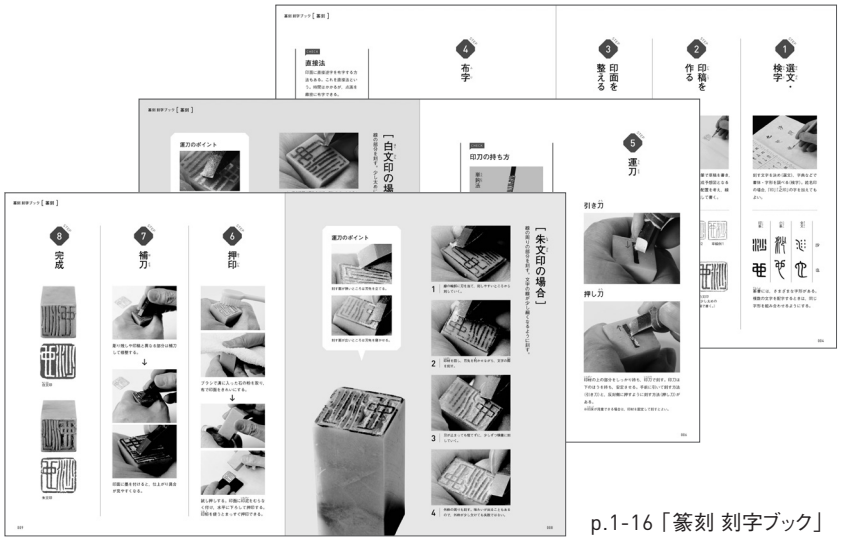
p.48-49「牛橛造像記」

3 取り外せる小冊子「篆刻 刻字ブック」

◉学習時期を選ばず，学校や生徒の実態に応じて活用できます。

「篆刻 刻字ブック」は，取り外し可能の小冊子としてまとめ，いつでも活用できる仕様にしました。 篆刻は白文印・朱文印の制作工程を，刻字は陽刻・陰刻の制作工程を網羅した充実の内容とし，さまざまな制作に対応できます。

判型をAB判とし，分かりやすく
制作の手順を写真とともに示しました。



p.1-16「篆刻 刻字ブック」

4 学習をサポートする「二次元コード」

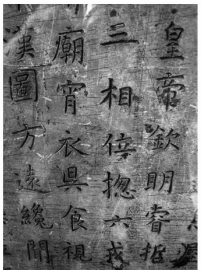
◉書に対する興味・関心，理解がぐっと深まります。

教科書紙面に「二次元コード」がある教材では，スマートフォンやタブレットを使って，「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻 刻字」「資料」の各分野の多様なコンテンツを閲覧することができます。

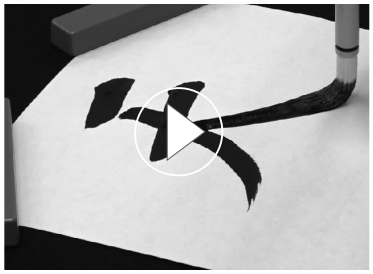
p.33「孔子廟堂碑」

「漢字の書」では，臨書教材の運筆動画や臨書手本，古典教材にまつわる写真資料など，学習をサポートする豊富なコンテンツを用意しました。

臨書手本



写真資料



運筆動画

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容				該当箇所
		A表現	B鑑賞(1)	[共通事項](1)	内容の取扱い	
口絵 書道で学習すること 書写から書道へ		(1)ア〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (2)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (3)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(6) (7)(9)(10)	表2,p.17 p.20–22
篆刻 刻字ブック		(1)ア〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (2)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (3)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(5)(6)(10)	p.1–16
漢字の書	1 はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体		ア〔ア〕 イ〔イ〕〔ウ〕	ア・イ	(1)	p.24–25
	2 文字の造形を学ぶ＜楷書＞ あなたは，どの楷書が好き? 唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 鑑賞を始めよう 牛橛造像記 鄭羲下碑 ［コラム］「摩崖」の書 隅寺心経	(2)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(7)(9) (10)	p.26–53
	2 文字の造形を学ぶ＜行書＞ 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 ［コラム］印でわかる古典の真価 争坐位文稿／蜀素帖 風信帖 三筆・三跡の書	(2)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) (10)	p.54–65
	2 文字の造形を学ぶ ＜草書／隷書／篆書＞ 真草千字文／曹全碑／泰山刻石	(2)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(7)(10)	p.66–71
	3 創作する 古典を生かした創作 創作例 ［コラム］さまざまな書の姿	(2)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) (9)(10)	p.72–76

図書の構成・内容		学習指導要領の内容				該当箇所
		A表現	B鑑賞(1)	[共通事項](1)	内容の取扱い	
仮名の書	1 はじめに 仮名の成立と種類		ア〔ア〕 イ〔イ〕〔ウ〕	ア・イ	(1)	p.78-79
	2 文字の造形を学ぶ 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬莱切 高野切第三種 表現を比べよう (関戸本古今和歌集／ 元永本古今和歌集) 受け継がれる仮名の書	(3)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(10)	p.80-95
	3 構成を学ぶ 継色紙 寸松庵色紙／升色紙 さまざまな構成方法	(3)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(10)	p.96-101
	4 創作する 古筆を生かした創作 創作例 [コラム] 美しい料紙の世界	(3)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) (9)	p.102-106
漢字仮名交じりの書	1 はじめに 漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く	(1)ア〔ア〕〔ウ〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕 イ〔ア〕〔イ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(5)(10)(11)	p.108-111
	2 創作する 好きな言葉を書こう あなたは，どの書が好き? 表現の幅を広げよう 文士の書を見に行こう [コラム] 文士の署名 漢字仮名交じり文と日本語表記	(1)ア〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(5)(6)(7)(8) (9)(10)	p.112-124
資料	書写・書道の基本	(1)ア〔ア〕・イ〔ア〕・ ウ〔イ〕 (2)イ〔ア〕 (3)イ〔ア〕	ア〔イ〕 イ〔イ〕〔エ〕		(3)(7)(10)	p.126-131
	生活の中の書	(1)ア〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (2)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕 (3)ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔イ〕		(3)(7)(10)	p.132-137
	書道事典		ア〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔エ〕		(1)(10)	p.138-140 p.157
巻末折込	風信帖／蘭亭序 書道史略年表／龍門二十品	(2)ア〔ア〕 イ〔イ〕 ウ〔ア〕〔イ〕	ア〔ア〕〔イ〕 イ〔ア〕〔イ〕〔ウ〕 〔エ〕	ア・イ	(1)(2)(3)(4)(5)(7)(10)	p.141-156